



秋田県における新型コロナ禍の消化器がん診療に及ぼした影響

本邦において、新型コロナ感染拡大予防目的で2020年4～5月にがん検診が一時中断され、それとともに発見された消化器がんの減少が全国調査で指摘され、がん発見の遅れが懸念されています。

秋田大学消化器内科の飯島克則 教授、秋田県保健事業団の神万里夫 常務理事の共同研究グループでは、秋田県全体における新型コロナ禍の消化器がん検診、発見消化器がん数に及ぼした影響について調査しました。検診件数に関しては、新型コロナ禍前の2019年に比較して、コロナ禍の2020年は、胃バリウム検診、大腸がん検診（便潜血）数は、いずれも30%減少していました。次に秋田県院内がん登録システムを用いた集計結果から、新型コロナ禍前の4年間（2016-2019年）の平均と比較し、コロナ禍の2020年に発見された食道/胃がん、大腸がんの総数は、各々11.0%、2.0%減少していました。このように秋田県においても新型コロナ禍によって、消化器がん検診数減少によると考えられる発見消化器がん数の減少を認め、全国と同様の傾向でした。さらに、秋田県のデータでは、発見がん総数は減少しましたが、最も進行した状態であるステージ4の食道/胃がんは2020年に7.2%増加していました。これは、新型コロナ禍による消化器がん診断の遅れの影響がすでに現れていると考えられ、2021年以降には診断の遅れがさらに顕著に現れてくるのが危惧されます。

新型コロナ禍では、感染拡大予防のためにがん検診が中断されましたが、その措置のデメリットとしてがん発見の遅れがあります。秋田県は、消化管がん死亡率が全国ワーストであることから中断のデメリットは非常に大きいと考えられます。よって、感染症流行下でのがん検診の中断は、全国一律ではなく、感染症の流行状況、がんの発生率を考えて地域ごとに判断されるのが望ましいと考えられます。

本研究は、科学雑誌『Tohoku J Exp Med』の掲載に先立ち、オンライン版（4月7日付）に掲載されました。

【問い合わせ先】

（研究内容）

秋田大学大学院医学系研究科
消化器内科学・神経内科学講座
教授 飯島克則

電話：018-884-6573

Email：kijima@med.alita-u.ac.jp

（その他）

秋田大学医学系研究科・医学部総務課長
飯塚 博幸

電話：018-884-6005／FAX：018-884-8619

Email：iizuka@jimmu.akita-u.ac.jp